一條も所しらず之三月廿

一 蜷川親当来訪ふ紀生と射り

付一條尊師のり

二 新右衛門が女房のり

三 一條乃殿ひさくふかんさう後とり

四 一條殿ゑのり

五 阿口右衛門のくりとりとのひのり

六 かくあんせんどうの死もの

付引尊のり

七 沙門名ざうと書く一條しんさう所り

八 一條みどうとしらさくへよりてのり

付所長於難回とくなる
(九) 鵜牛乃流のく難乃う
付高極抽ぐこうりのう
(十) 一條こりぐこさとまり長於とたばりなる

一條こうり　巻之三

(一) 蛙川新右衛門親尚こうかいこさ文智為の乃
士ぐこ和尚乃りこく立入禄法ょ奉ーられ乃深ょ
仏んの坊奥と法ー所義とこさひ英雄乃立わ
いひ門ー和尚も心面わひうものくゆしくど
ちうもしりなるぐこれば立業新すく寂滅乃
家よりんこと結トろひーもと思ものう
久ーくどひまかけ乃こりそ收乃いろぐこ
えたうー門ーせわけまちーとのくへこれくこと
よ名誉とーくどひぐるーよそれかうめをわ
これーくまちね神さんゆしくぐこりとそこへ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

休ゝ
美三

とぞおもふこゝろたゞかとそらでそれぱどくふわまの
ゝ雲雲のしたそのひとつくの和とぶしこゝ
皆時よりくくげりかしぱうるなるとまうえん
まれぞ雲よ入しこゝのるむしのれぱけこゝと
ゝなくぞうこゝ雲ぱ入しよ春のれまぐいりぱ
一首の辞世と作りのこゝれうる
まれの雲ゝ雲つくさよ死のれ
こゝのゆふ風ぞて
とゝやうよ作こゝ陰作とけうふ寿まうれ
寂の玄海と悪海しくぱ雅のまやけとゝひ
ぞりの死門よ入ぐゝ海人の孫もりとゝ海ゝ

ぱい世人の孫ゝとゝ海ぱ海ぱ一体と解脱
したのこゝまりぱ引寺とゝひうれぱ一体をぱ彩玄
よ二かまりうりく引寺まべしくぱうこゝ海一
ておこせしぱぱ体を出まのくぱ彩玄まげまぐいとこしぱのゝく
まりうれぱ一体を出まのくぱ彩玄まげ玄海鈴と
ゝこゝ彩人ぱ死しゝ海ゝれぱたうこゝ海一名と出一
て一首の辞とぱ一体よりけうる社いふしぐまれ彩
まうこゝ人ぱ海ぱしこゝ今の世まぐくもこ人の海ひ
海こゝ海りまりぱ死辞しよいこく
ひこゝ海まくひこゝ海りぱうゝ紙まうと
海こゝ海ぱこゝ海ぱぞ海ぱしこゝ

やたらうたこうへうれぶそしでられおそうぐ法ー
ぜ奇と去法の社ちぐさん

ひとりあくひとりうるを業ひとり
ぬくしばさうぬたくーるん

とのぬへぶ彩お寿をちえしやれりんんそれはとと
もせびうりうるぶへうふ毛とやくぶ函しとしへるよ
いあうびたぐ仏ちが業の薩ちうふあううれひとりあく
ひとりうるうとしへぶ寿うびさうぬとうあふぶくと
ちうやとがうへうふおうるぬうるぬうりく
おぐもねうれいなうりうるとうり。毛ふのいういれて
をりうびぐ法うれいいのうるあーしいうへうぶ法ふ

(三)新太寿ぐ宛ちの妻ぶうるあさ時ーうりぶうび
ふんぶうぐうくぶうりうるうれぶかーしうるさんよ
ちぐひうめぐくうく。ぶーつうふうまういふを表像の
かうりうをうりうり。ぶうれぐへいの仏とかとしも法ふう
ひうるれ修ぐの居ちふるれぐひくぶたとれおか
毛とたうぐうりう毛ふすいう福ひくひのうちうぶ
とみふへぐうれさうーう法ひ新太寿あけうれ法ひんよ
ちひくぶとうりうるんのうるれぶたまーるとうぐ
うぶうーうれぐ毛とうめうぶ法ぶうれた寿ちう
うーうさみくぐうりぶ時ふまうりうく新

[illegible]

あさ[illegible]

うむ[illegible]

[illegible]

[illegible]

ちぎりしかりかりかり

いぐんぎをかいさせんとく。ぢいあるよりひろいを見とり
のんぎをもくしゝ
むし。撫牛八十さぢのこのおのく稼をなす人
今まんぢ空すくゝ。ひゝ。ゝ。ゝ。

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きさまをとうせるべきぞうばゆうておりたるけん
とぎいひろ。和尚ぞうしめされ秘蔵の大事。一代一流の
秘伝をうれたる最傷よとて。くしびらぐぶんの傷ろうく。
さきぐろうよ社うれろやぐくるひゆく高よろ人
うぞわざうしひくのうふやうぐへのやまひとうとく
うるべきぞ。秘伝しくひうり出ぐこうんい基盤のう
とうきんうり。うれうれうるとひさうくぞ蔵。おうこう月
秘しうと秘しぐこれぐ一大の国源とばいぐせんさうぶ
ぐ。公祥の冥罰うこうぬうこうぐれとううく
ちうせんうく
一に神のうとうりのうりうひとやひうれわ

らげぐうのうとうんのうとうとうやうさけて
のひ色しおとうのうやうりてうくび
ぬうぶうるみし。色ぐうひの秘系うり
や書くうえうれうるぬし色とやぶくかう海
とうそぐりのとうくうてびうぐひうさ秘とて
しうり。一体とうぐ出ぐ。ぐうへひじんの間
傷れぬうて大うの秘系とうひゆくぬ一傷ぐ海
じうくぐうきうとううぐうぬうさんうれとうく
万人のうのうさうぐうの曲うひぐやとうのびううく
ぬうふぐひぬうぐうしうもうへぐうくぬうれうよぬ
うくうくうれうれぐうし一体うれ大ぬうぐうううぬう

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
くるり
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひ程ぞ〻くひ〻へ〻ぶ〻ぬ〻くまゝ〻てぶんひ程〻ぐいろ〻ぢと
ゝわぶ〻ぐり門毎ぶ〻〻ぬけびしやく〻ろ町とゞゝ〻ぶんん
ゝ〻ぶ〻ぶ〻ぐゝ〻ぬ〻ぐゝ〻ぶ〻ぐづゞぶ〻ぶ〻ぶ〻せ〻ぶ〻ぐ〻ぶ〻ぶ〻ぐ
ゝ〻ぶ〻ぶ〻ぶ

ゑ給ふ。ちうしゝいひ一ゝ伺ふ。ちうしんとゆんまへばかりくらよ
ゝ。やうとぞ。ぢりの初さうる。ぢいぬ。ちうしるらうく。
やうくらふいりくゆんまへ。ぢの男ゝあひうゝ。
めぐさうけうち系ぞうし。おうじんよんうあてぐり
ぐうとうるゝ。ぢゝ。ぢゝ。ぢ物ゝ乃わさまゝ。ぢうる
ぢたいじまとゝ。ゝ。ゝ。

しかひるやあーさくそうしかやいでいぶでくこと
ひるるぞれい草をいつよりよりこそしゆるるるうびびいと
よ正直くくまりくさひくれいは他人いわくけくく
ありがたくとぶひくくれかひくいとやくれい一体宮じて
思うれいできづくひるるるるるぶ果とゆるるる数ひす
書ゆをあんび弥正直仏者ゆ
とぶるるるげよ仏をくれる男つくくくしあるる極か
ふやくくふぐぞくれーぐはんくくひんぐこ年いあるよ
ひるーくるりぶくるよ仏乃とくくびびくぶくるる
あるくくくーびげうーるぐくる天性ぐんるひてぐく
乃ちるぬりるれくるとゆひるるるはりくくーい

ありぐぐーつくくくるるるるる

よ國の数六百あまりの所のさに國の数六百あり。
合て一よの國をさいごくに山せいのごとく日月をしたがへ
やまぶみ下よりそびえたつるごとくにんらまんぞうをとこ
をかりあつめおしゆ大運の潮更とりくくの業をたゝかふ
よたがひよ國とあらそひたゝかひ六百六十六年の間
あわしたがせんさくにやひとすべしいにゝ移んの國式
たちまちくにゝ移んのあつびかわつびしの國をとゝ又おうなを
中の間なさたちまち地とゆくすべくあり所
まばあゆとくさいしをうちふゆうのひしわ
つくゆへよりれわしに死をうの見ちちいさに
ゆるしとの移ひをうぶ世中よ人をう

あるようはすっちんとちづよりれば一体をうしめれ
ばうとれすのくぶ海よりうをうを名とへうとと
いつり胴の大きさの里ちぶのあるごとの里あり。
あわせくをようつうはをうくをうりぶとりあ松とるん
よゆうやとんぐーぶ海ちりるひちぶちりくく
ちぶ箱ぶ一日よいくるの方つとちくにぶのる
ををびをふもちびぶーとうをていをうをれたいつ
ゆきりはくづをたちれをうりぶーれ大をうをはる
きをとあるまの松よとまりぶくぶ羽とやちあ
はくるうりうれいぶトちち大ぐ名とあげくがうちれ
紙ひげをうをまりくはのぶれるうをとをけひを

所ぞ。こゝは大きなれば、ぬしぞ。ぬしは
小海のあるふあそぶ。大きなるを、我こそ、
りくまと、とんでやとひ、ぐろくとび、あるく
ばかりよおんでちらくぶ。此ものは、
所大来とひげよりちゑ、くらまそこれ
地名のゝ也。とのゝしつまるを、時ゝ、りてふやうゝ
ぶんぢぶのさちくまと、とんをとしぶ。
いゝのもの海のそこふ代海ゝ海むられ、ぶ
んざ所でしいそぐされ、りるべゝと大ゝ
そびくいりゝ。ゝ像ゝしゝ大ゝ、ゝ
ざむれゝしゝ小海よりゝ。ゝ海むいりゝ

こしが所ふるさへ南極とこんごうぜんぜんとひさしやさ
さしそれ我見ねるやうぞさとらひ南海とーこらぜ
こうのことさしておうぞさるる。まんまんこ海さうらいとお
けられいそぎそれた廣大無辺色のうちるれば。ぜうつ
ぜうこうはうりそり海ぜを祖をつうれもくどわうわう
乃ありそれいぜつてくさいりやとこう海を河こうよ
つとこ名とぜしーあられやうぜんてに入ーしおがくとと
いそぐぜーおやこよびうとこ海ぜを見ぜとこうりそこ
はこれ南海乃そこふ代ぐ海をるぐぜやうれぜさい
ひくぜ極へおしじきぜしとぜ入ぜもうくうこうるれば
ぜぐくくにやまじれるりぜるに地ーぐやぜわ

とるんてよりうの虎すいんるるんしおうれるうそのの
ぜこうりぜ人ぜうのようるりまこ海ぜふぐ名ーくふふ
いわうちうこひやくこうり武海よとじろめこうりぜかのれぐ
ぜうくこ極とうんうすいぜるまーぐこうりぜひこうら
ーいやこうれたんざーどひうーうくうれうりを
ぐこううべーしーどーぐ海こ名天地ふひくこくやこくこ海。
根ぜ名びこかるーまーぐこくぜ。終ふじるーくうりくこ海。
それこうりくれくあぐ南極こおりひこぐくうこうんと
んぐーぐれぜこひうくこと出くぐこうこうとこうゆこうの
海こゆうこーぐいまぐこうふふおひくぜ人ぜいんやいつ
くうんこいふうるうぜーこぜめこむうやうこの終これこう

十　和尚ゆくえしれずなりたるとき、ひとりの尊師よいうるうへとうかがいまゐ
らせあり。和尚わかきとき、おもしろくうたれたる中ゆもむしろさまに一休
和尚はまくいわくじと仏事はのちのれいそざ
人とぞつうとうかがひ和尚いづくのちりとうらい。
遊とそうだしくまいりくるがとうをるけ
ぬは信なれば、やはりくつやうしまひそうざ
行よやぐくやしくさあとうへおさあしこさのこの人よ
分とやこしまあしふまとおじつと付ぐうりそと
あうとひそこののぜうり出ぐあやうりふるりそうれ

おくそうひこのじきのこのうごくぐるやうのはせ
ぐやうとこべぐおひとトされよとりくふのひ
うあわるじやくんまうとくるとくるぐるきやり
ぐうとおひ出せうとト和しうるぐを呼下男三三人え
しうと出くやういわをのうるれうふ赤くはめく
まやそうくうくうれそ月いさうばぐさうや一
休どくうきを出しまりさんぐくふてうちやくし。坂
くうそうてそ入ふうぐ休一休いうくうさ命とやうくうさ
をうりむざんのたいざとやうしめしひくうきを重へそ
ゆりのふをうをりうれぐをのうさあよりうくく
おくうんゆわをしまひ衣とうるのうくめうれうるを丈

乃ぶんさと。ものそうぶみうけ。きんらんまうつとみとり
つくろひ。ぐこうりんをもしやうよりさうふ。一休はこれを
うれしがり。是れ大きにしろこびおへして。はじめうさされた
一休ものみまうびやそれまくいたまうまし。是偽はも
よいたくぶうもとにるりくふ。是れはいぶん
て是はいかものくおもしまたおくしいまうやうい
下らうの乃むしろるりごうくへとくとくとくとと
ぶうくもれば一休はらんじくぶりしが是れよ彩供
と語りるべし。是偽ぐ語りるふうきみ細をーちくー前の
狂奇とこくふ

一休はなしの巻三終

一休和尚の邪婆と語りつくふ物
二 是偽ものを語邪とこくふ
三 一休奥と物のこくふ
付 道慶乃由来
四 一休高野山へ登る
五 同熊野へ山籠の話と語りのふ
付 東坡居士の物語
六 一休是乃女房よ無記しのふ
七 場くふくちくれる死し語このう
付 めんどうと書くしのふ

八 大内殿の物語の事 付 性質のこと

九 一休住堺へ下ること付 同所のこと

十 新右馬仏法相論のこと 付 雛よ天飛ること

十一 一休物ゝ作りの事付 付 同所のこと

十二 同所の日新右馬丸奔走のこと

十三 一休未初辞世のこと

十四 同自愛自慢のこと 付 未代遺恨のこと

十五 一休和尚風流のこと 付 付 狂歌 二十首

一休咄 巻之四

一 一休和尚ハ洛外くるくるとゆきたまふ時分一休へまゐらんと
ぞ思ひ入れとそこまで人ゝ
ぞくまゐりとゝ内ひて登ふ座しまして正面の松の
枝ハ鶴とうけられはもゝ丸ちゐ
わるくやとゝ思ひくるとゝ
人ゝとなりとうけ所自立のあるべしやとゝ所ゝ
ゆかれ一休ハ一条ハ辻ふれと言られしを
仏法の法門もてゝ乃ち天服丸とそ言ふ
ふ生とゝもんがとゝ所ゝ生をゝ
ゝ自力自立とゝ

とのたまへば、ちかく人をよびて、
西とは、夫にてこそ、おかしけれ。
仰られしを、まことにあらざるなりとて、やわんと云人
をもてなしぶりやうくれとて、そこをびうちに
三三人つれてきたり。一休の御座敷をおしくつろぎ
ひいらぎまでけまで、五人ばかりこと、ばをもちいたり。
一休出あひて、宵くれの天服茶とはやいし、給られぬ。
を中にてびうちをおくやうなる門、是は仏法くまべ
し、宮をもてなしたひとしたく、山義よ人わづらひ、ゆんあ
やうなれば、いとやすきものなり、ものらんを
ものがしんとも人のがるとらうとしたりしびのわりしたりて、
おわれぬがしんとも、時ならずして、ゆんをんと、仏られるべかり
人わらんして、ゆりけるぞ、中れ一人やうなる門いげんして、
体人の給りふいとんぞ、天服茶とゐるのよと云とは、
をおがーめーぬーいまーめ、ちひろうりとて、義とて、ゆーと、
㊁一休おれ者へわつ時、歌あるりてやうなる門、山ゆる人出へ、仏ひとく
人やうなる張をして、ねけうくるぐーして、祇園の品
夜なるとわぶぞりゆたん、迷惑とつーこいるゆりて、一ちく、
西とひふ夜ーまとやうなれば、おうべざーられ、
うなれば、参するとはいうるのうて、ゆりけりとりせびやな
ゆうたゆりてそがてんのゆるゆうとゆるーれしぶ、ーうて、ひこく

給とかいてたまう。一休おうくんーねこねーておこ
えんぜのなかのいもうと。一休へづくへ行くと言へば
わくべや殿と仰らまして。ふるい佛の方へ行毎人間道
かうと殺。一休の分をまいりのがいらてがてんのまい
らぬまゝそこに居しおの乃山門のやるとの杖よ菓をとり付
ていのげたるかの乃をとりて子よかてんまいくどたべこ雀の菓を
よみてそこをとりまきとハわきまへどゝとやけまこべやや
くかくとこきいまの付ろいとかてれとのさまへいや
そこの乃ゆまやよのぎひとたまて去あり給れとやられい
こを気をくだくくべけくとりちゆきのがりたまへ
く仰らまたればかりのりそぎはがりてかの菓をち

りてもこれを中まもあるまのかくおにとして乃てねなるを
一休仰るとみるまへハ行とあるにいきく仰ることもをハ

一休和尚

雀乃菓を拾りて乃まはうをうて
あわようけて乃てさまへおう一そくなりて仰らるまを
ばかりの乃りく仰くこうけやべきんいきくはとやは
まを。一休仰まけりいそこるハ我しあんちふ一そく
さけまくまくさんりまくまくまく

三 一休和尚門ノ内ニ虎ヲ描キ給フ

毎日ひろとりてゝ奥とりてまいりけれ所ゆえ
ノ侍達ゆれいふ津たち仕合ちとゝ一休と一ノ示へ
てゝ虎ヲ見んしそれバ一休ノいとくおノくちゝ
りんとちとゝ仏事とろ志ノや我おいなし一ノ和尚
ノ美術とちろ沢様ノ志ノ志ノ志ノ志ノ志ノ志ノ志
事へ仕ちゝ見てくゝ志ノ術とちゝ見ノ志ノ志ノ志
ちう張ハちやうちゝ切子ノ池ちとちう張ハく食
ちゝとゝわちくゝと法ノ事ゝ我一前ノ奇とかゝれちる
いふしを志ノちう和尚ハ蛇と語し
我ハちかちうて奥と法ちてちゝ

こゝろをやりて、はなをもてあそびけるに、
けふ、あるかぎりの花、ことごとくにあらしの
ふきもてゆくに、ねをしみあかでいりぬ。
あるじ、かぐやひめの、はらからなりける
人、かの翁、なをいとかなしうす。
わかきひとびとの、花のしたにむれゐて、
もののみきこしめしてあそぶ。
をきなの、かぐやひめのもとへまかりて、
かくなむ、あそびはべるとて、
まかりいたれば、
いとよくきたりけりとて、
もののみなどすゝめて、
あるじのをきなの、
よろこびのあまりに、
かくなむ、
よのなかの
をとこ、
をんなの、
あはでかなしかるべきわざをなむ、
をしへはべりける、
とのたまへば、
をきなの、
いはく、
あはでかなしかるべきわざ、
いかにかせむ

ぐわの花菖蒲とハ茅の事ハ菖蒲ハ
ゆ
ゆ
ゆ

よるりてはぬんしけうくぽこにもひけまへ一体すち色
さうぐんぱそくゝ和のくゝはのろたるこことはくまつふのの
親ふへ歌よりあられた歌よりの山和とうくちろくとの
たまへはなくそれいはりとやうれなまぐぽよのへくく
よちくくへおりくへぱ山一体ゝ於ろりなくへ一体ゝ歌よりの山を
ちりうるん和とぷえちり於へまぐとてやひまへぱのくく
ぐ門りてはげられけうとうや

四一体雪ちるぱ山へのぐりりひくぽ空方の山をとなる
さてもやしまおりりちを風糸うるぐとなぐめてれて
けまへぱちる雪ひ。つまた立ぱ山。一体と見てぱりるうへそとた
つるれへぐやろてあるさろ和ぱ山をぐめて

一見仕ゝへおまると風糸ろりなりちくゝ行まぐぱぐと
まの行ちる年ちゝ一前ゝ行ちるまりりとるてぱくぐくと
ゝて行ちるくゝりるさまへぱぐぐつまぐと一体ゝへ中ゝ
於りひてうくぱぐ去りりしやわぐ於へまゝにめくまん
垣のぐちぐぱちりの雪ゝしりるぐちむゝやその前へ
かくゝぐぐそめ行ぐりそちむげなりるふて於りる
りうをちへ山ゝ山りの和りの和りのくちりまりる
くてりそちびゝまわぐ於りゝ於ぐくてはまゝりりけりぱ一体
かちくりくゝりれ先ぱりゝにぐちるりて一前行
現滅於りりとりくまへ仏ゝ一前出来ゝりやぐさて
そやりゝと又りゝに来てやまゝ歌ちをぐぐと出りくれぐぱ一

体質とおぼしき東坂西坂より径山ちるの詩を山ゐりお
ぼりてとゝ思ひ石出さうれて

七 山秋葉落ル
八 山春開花殺宣
三 山近遠海執佛心亦
山高近都率内院
山閑義花世界
山近遠書鶏佛土
山草枯幽源化佛地
山表開花慶心進
口 山年幽源化佛地亦
六 山表源風炉寂
山裏源風炉寂
八 山冬来寒雲寂亦寂

加くのごとく詩句よ筆をひりへ[illegible]
刹[illegible]たるごとく折て掛[illegible]
ぬ結乃郷やこゝをわさてくゝ[illegible]
なるこゝまたとつひて仏とゝ[illegible]
いうゐゝへ[illegible]
よゝくの絵へ[illegible]
[illegible]
乃筆ハ[illegible]
や[illegible]
と仏ゝれ[illegible]

あまぞんはうあるとそ坂へらをあへとやうりくにゃそ
命けうぐどやはゝ向あるぐしとみさまへいろこ祇園や
てかくるまりけるこそ里乃中ま一人やうあ乃ぐと
きの乃信ぜ山へ又ハのおしじ大師乃ぜ新ま賛どたのと
やさんものとこ又ぬつけを法ゆまなること伝ら向無
ぬりくとやもと一体まひあ知くそれぐこのまい又ぬう
えこ法たたりまやぐ乃河新といそぐ拾無ま
乃ぬ乃業ぬやをこそれけりみ多へおとぬき大
師乃誓を結ぶ色ぐ思業りるくあそぐしと変
しま大悲多の祈師ぐるくだの祈とまるひて坂大
師の法部を拾て業りるれいぬぬぐるあそりけ

法大師活佛

あるは拾くくの乃ちくなれ

と一業ふたりくとあるそりけみくくふくさま
ありくいそぐ山へて学函ふ人拾けまハあのの
拾どけまありしかぱ又ひ人ぬとえあさぐりけと建
㊄一体智あ乃河練智ふ人河ま法りくて知ぬ
へあぐり法ふぱまの中ま乃ま山ぬ宮ぬ乃祈新
乃二月の法ぬもいくめぐ乃ぬれぱあ乗ぐるのが
つまぬ方乃風ぬとあぐめて海りくけ多へ祈法一人ぬ
宮法法ハたぐ人とハ月人まりるぐぬとやけまぱかりく我あ
たぐ人ぬそいふぬぬ出新ぬそいとぬられりぱ法法そと

一休和尚

[illegible]ことはのうかとて[illegible]
乃事にかけ[illegible]
まなこをとめてそ[illegible]
つけて[illegible]
てぞ[illegible]
やけ[illegible]
作らを[illegible]
けるなとひとあ[illegible]
[illegible]
けるなをとそ

一休老人偈頌

一 山廟[illegible]
二 山家成[illegible]
三 山海[illegible]
四 山樹[illegible]
五 山[illegible]
六 山谷[illegible]
七 山屋[illegible]
八 山花[illegible]

とあそびけるさて枝垂一株ありとて撰抜て座
をしき扨ゆで茶うるもぜにもまゐりつるあるか
りわかいえのさうふきたへとも
雲とあれてゐくさめやし枝垂やけるハけ山人又ハ春な
らくまんくりげさ東武乃春もたるべられハ行よて
し一筆あそび給まてくやけまいやとさまんぜ
わまてとけさまハぱそもれ春りてのれ紙の結ハ
自慢とそ山ゐ又ハ一座もかくらか結乃結りけるまふ
てゐりくやけまてさまハいふへくちあるくまるり
りくくの結人赤飯乃生ゐ紙山ゐりてつくるくー結
りかくりゐり

一 山花 二 山壺 三 山雲 四 山水 五 山島 六 山碧 七 山俵 八 山宮

と結りあへ山ぜ扨ゆ山年まゐかくまる
乃行くよ行さればかやうるる結八月ゐまも年ゐ山ゐ
こゐ山ゐどりくらく結ゐ月たる年ゐも年ゐまる月ゐまる

ゆきどのそでぐち結び手てのそこけ手ぶくろ結の手ぶくろ
同じ手てるまいぶくろ
ふりてくるくるとまいぶくろ
ふりてくるくるとまいぶくろ
ふりてくるくると

見ひとはくさまへ〻はなをたてまつりけ
るをかれは伝やいくたび身をまことにてそれは
あまりにはかとや物がたり一体もわくひあり知るこ奥にあり
いてくるをもて乃同をれ身をまことにまてまつ
きをかとをあ

き稱ぐすで海山まをり谷乃こゑ
へあひのく稱をり庵おのゝ
とあそびけまはなをたてまつりけるはやまこゝに
見あまをまをあまをまを一枝をもてまつりけるそをに
のかるをさを歳ぐすで初くゆをまをまをまをまをまをまをまを
流をやまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまをまを

六一体和尚はまをの宝乃まをあるに死をまをまを
あひてぐ殺もありめを死義ふをまをぐをまをまを
ぐをまをもありてれりまをけるあを一体の身拍
乃奥をまをりけるくをまをまをまをまをまをまを
死れりをまをあるをまをまをまをまをまをまを
あそびをれはをもあをまをまをまをまをまを
らあをるを枝世界をもをまをまをまをまを
ゲををむをを春はけを一体めをれ
まけるかりをめをまをまをまを作をまをけを蓮
らん紙合あやをを伝をを一歌をまをまをまをまを
ををぐををまをあるを乃まをあををををををを

てしかるひごろ行ひ先はいつ事もとて立うて
と一体神よりとりぴひくよ春はいろまちもあてこ
らめあ人ぷ屋やうぷまちぞハ一体さ海ハいさぎやう
のやうふもひしがわくとにはんありてそで先ぷ行つや
さやうあ川ろ作ク部くやけ色バ一体ろひ行せ
さそ人ん人とうれやそ西海よぜひこそにくさでめやを
ふりけありのぐぷとゆりあ色てくやとりあうてぷらんを
色べぷ法ろくぐうや史わろ身がかろ多行ぷさりて
ろうさろて典ろ典ろ立うとけう板文ろあひて一体を
佛ろやうよもひそあくさしされぐりめうんぷぐるろ
ろ法やりうよ海とすあひてぷさぐ一ぷ先ぷろ

まつさんごうひ一歌くまを一こかをよ作るれけるを
らびわちるへまりあのかをさいうんをとりを
しゆけるを支ハさうをんをてををおそうしひをうしそを
作るをんびをかくいもをこうりをしびうんをよいうるを
あのうをもをれをたの女を兵部乃世尋をよをを一しし
げうを一歌をまを出をしハ中しく出雲の身をそをいひをこ
を一体和尚と桃とをあをべいをこを生様をけうをめを
我ものを作ををを作ををを一歌あををびををあをのの
撰ををを我ものを神ををんをををををををををををををを
しをををををををををををををををををををををををををを
てをををををををををををををををををををををををををを

ををををを一をををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを
をををををををををををををををををををををををををを

やけまをぶ（て）ものもぞ（ぞ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ）ぶ（ぶ

ひかのほうびてきあくふてこばこ一体のさしひ
けつへ我あゝ出まゝ却てそれゝ後ようひとるもゆすもて
ち来つけつるうしべしとそあそびけつへ
海中ゑ毒魚　名云河豚魚
面腹白背羽　人ふ合し魚
呼嘯痛武　又云命合し魚死魚

彼業ゑ十四　彼歳ゑ十四

合せて数珠一連百八数悔ゑ多ゆつゝ載
て行ゝ人へけゝとゆけ
本曽ナセ寅乃年角のたゝひて海ゑ
とゆをゝけてけつへきれけつゝやゝ所ゝ

きゝ生れ代ゑ仏ゑ多れバ生ゝにおゝゝひりゝ多ゝ
だゝれ書ゝ紙ゝゑ多れ結ゝ仏ゝ多ゝ
しゝゝ多ゝ書ゝ紙ゝて今の代ゝまゝ多ゝ結ゝて
けゝゝゝや

八一体松高乃時代まゝ方ゝ乃ちゝゝ七月ゝ
大内ゑ祈願ゝ筆ゝ上げゝ申ゝ大師ゝ
まゝゆゝ多ゝてゝゝけゝ
ゝゝゝゝゝ多ゝ一体ゝ
ゝ時大毒ゑ祈願ゝ
祈願ゝ多ゝ

桃の灯籠の天上用　松風流の演奏

とあそびけまべみりぐはえい流れきりくてぽてしまま
一体乃結ろうめとやうめさ灯籠をとりとめける丸自と
いはは大速ちわと行方乃ちるちわし七月小盆踊を
さくぐ分まるべうくべと作出されけるもせのへを
とゆて拙しく名信ろかりかるはあろぐしあて宮ち
はるふハ性宮ふハあろまぐぽあべさそかりんの
まそやるべりぎやへく一体のはるへありてえん
抑武代のくるもちしるべしと宮へつまるれま
りて一体ハ宮ふかりるぽはる禁裏へさげるひ
灯籠乃結ぶ中にて宮ぽのこ沙法仕ぽ宮てかるは

まく海ぞこにくハせまろうしあそび中もまじ
中けまバいやく親ふハ三男乃方まとゝ
三郎乃兄とまろうそ中へまる
ゝだい　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
人男ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
まろうのぞとゝけまバ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
伝ら伝ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ら　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ま　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

為てうけける

㊇一体和尚の法衣は浄ちうふめてあてとくや一体つ
ゝかのかけ紙をとりてはうしをさ
つてたとをしへあんえ忘りくはさそりよりくぬ今をだ
今仏のこゝそこ一体きしこ。一服のはんを
忘れてもはるのあ勢はりんこゝひあけまえ山
ゆ和尚偽ゝ屋へはいあんよ何のうこゝひうれ
出あるゝ。ゝらくこゝ今とうのあゆゝ苦もゆ
うりくとありゝさのひてゝ。屋へはいあるゝ。ゝ実人
ゝ紙をとあ年ゝんよりゝ我ゝはゝまりひてゝ我ゝゝ屋
あるゝはゝまゝゝあゝあゝりゝそゝ我ゝはゝまゝてのゝゝ

さゝゝゝ生ひゝりゝは行れゝるゝべゝゝのゝてゝ
一ゝゝへゝゝゝ作ゝゝゝ生ゝ行ゝ。一体さあゝべ一句ゝてゝゝんゝて
月ゝゝゝゝゝゝくゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

出さるゝ事なれば
くわそでつけまゐらせ一体
と一首詠ひ給ひけるふ
いまはくやあらうくふきりあ
ゆしくいろへさしあけまと
とかりとゆめくはなもくとうろひける
ゆしやうあさ
十 或時姫川の新宅へ来りて俳諧
そびなりけるに一体の伯母
うもり併に百飛とさへなる
ちりの文飛とはなつべき

やうにけりつぼまるにゆつはふ
発て百飛をたのもうたくさまふ
俗ハ見ぬ所ゆくさまやぬ
間は見えぬ所ゆるのの文飛とたりまあ
なる一人乃扇子さへ百飛と
ち生ふのとしてぬ飛とやふ
られるまでば新ちゆつ
つまやゆくやうりあ
ゆんぬで百飛と一ちひた
しめ給へるの清新紙乃
ゆくれば文飛とこそ

ていそく

如何見　教業戒　言て云　仏蔵かしこ〻ふるまへ

如何見　倫盛戒　言て云　悪そのこゝろを修するなり

如何見　聚落戒　言て云　聚落しくおつせどもや

如何見　高源戒　言て云　量そ〻ごとくさるや

如何見　飲酒戒　言て云　悪そこゝろんざいそざるや

見廃ぬ乃破戒をゝどやゝどゝ伝らんを見べ今ふこゝで見ぬ

法はをりなれ見一入をこゝてくゝ戒の内衛盛

戒乃は言ふ言葉やしくゝは。一体言て言くゝめ見ぬ

ゝんゝ新大乗のいそくゝ

廃見日本一風　風ふ日本一風

ゝゝをゝ

ゝゝゝ

ゑ
ゑ
ゑ

けまは一休わらはのひてぞんじたまのことを
おぼしめしを

わらはこそやとろうとうそすを
人にしらるるを
とおらまをくれぬさて寒樵法師とおぼしきれいを
たりまをくまをばや樵樵よりて居らせてをけまば
さてハ信長をうりてをうとして笑ひ給へ一休又一首
わそびけり

ひろの春に町をうるかをを
しるしあるとうびうるとおもうびと
あそびけまを新右衛門をうとを樵人にて居る学問

ひろそのよまうてをしぬ乃徳行をそうろうびて
をうりけるべ所もうをうりてをくをく行をさた
まをくを作らまをそうろうびひとをきをあるをとを行
長れいをずをにをうをうをうをを作を一首にをづををしぬを
をうををををすをやをををを

[illegible]

十三 一体和尚の書給ひし句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一自愛自賛のぼ句とたぐこ行りしにあらざれバいくたび
名繁みて聞とるの句とくんぜとりくさ花をめ
光竹の行秋をつくさぬとふ時うけ行りて繁さ
柳八雑花八紅とあそびて一頃あり
今日時節
秋月清夏軍
蟬三月雪
初冬よ
富嶽くの一さい
寿命天下光和尚一体ふ純
市井の書けく
とあそびけ見ふ同しすくまじくて身のもと
ちざけ
一高陣菴よ八未代まで寿すべと作ら五てぐの月

にかりまの寒山ふ行句う
我心如寒月
秋水清長空
とぶりしげ一体乃乃乃
系出ろそ世ゆ
はとるかもてくのあ
とぶりのふこれ寒山の行乃ん
一一体八ぶざめて寒月
こ結文おり
その中ら金銭の耳ハやさ行とまぬ
貧乃貝行て乃あ
ゆ変ぶ世ぶ

かくこそとうらびあるべき事なれど
屋まもりをうくわぶあやうしとなげ
くるかりねがくあるうり作る

一休道者の歳二十首

題神鈴

蓋ふ笠字我ふ黄
孤夢和尚の画

東西南北自他身
花数十方浄土春

元来無住師に
元来無住身
金鞭ふ的世間
彼岸

今日は岸欲開珍
玉蓋世蓋又玉鈴

梅住師

生涯沒蔭時
欲問換斜陽新古
風

独叩寒金衣蹴戈
和源法物宋風会

男招

一生思宗動僧
入ふ門ふ為何事

腹身貧色病まる柿
時白金大小腸故

起居乞成住師
伊勢壺庵時勢眉

金身貧極ふ雅情
天ふ晩達ふ眠

八寸雅和尚猪人
頭更先ふ華沙門

妙源

元来ハ云ハ人云ハ
一切衆生迷塗ハ
六道少人ニ首
紅紙縁冠帽喝
為ニ更傳懷慈

其二

妙年十八月出家
為名天仏多世上

其二

為名天仏妙冠世

西信毛氏擁九痕
十方結佛出身門

況三歩年十二三
案前味味殺推条

一笑和紙花開
嗚呼見山玉路式

指切年丁人御

妙源 無業又無解
契児文殊
看蓋勿忘七仏如
多中強出見仏如

山僧風流只文字
雲叢嘉樂無少年
宮殿無人小弟特

契阿弥陀佛
如見乗教
一人無教
我無教

万民無
契大黒
大黒為天面殿
平生無嵐見仏

我無教

竹墨捌隠
未曾用心

契布袋

[illegible]
佛 無量壽
地蔵 [illegible]
事 白拍子
又 [illegible] 田村
八幡 檀浦合戦圖
[illegible] 義経
秋風 根八 浦
一谷合戦圖
百騎下 山 源氏兵
長江 [illegible] 英雄 [illegible]

[illegible] 鎧 [illegible]
[illegible] 寝覚 [illegible]
[illegible] 月 星
[illegible] 乳母
[illegible] 信 [illegible]
[illegible] 清源 [illegible]
[illegible] 出 [illegible]
[illegible] 風 [illegible]

源九郎 [illegible] 弓圖
[illegible] 俊 [illegible] 弓
[illegible] 仲 [illegible] 対 [illegible]
[illegible] 谷 [illegible] 義圖
[illegible] 十六 [illegible] 男兄
[illegible] 谷 [illegible] 義
[illegible] 本 [illegible] 帝 [illegible] 治 [illegible] 先陣圖
[illegible] 陣 [illegible]
[illegible] 名 [illegible] 四 [illegible]

[illegible] 月 [illegible]
天下 [illegible] 英雄 [illegible]
身命 [illegible] 珠 四 [illegible]
[illegible] 宮 [illegible] 阿弥
[illegible] 関 [illegible] 将 [illegible]
[illegible] 仏 [illegible] 伝 [illegible]

[illegible] 長五 [illegible] 開板